



主な意見交換

意見交換では、魅力ある川づくり、地域協働、拠点施設の多様な利用など、様々なテーマで意見が交わされました。



座長を務める加藤氏

わき水利用の水辺づくりについて

- 今年度は、昨年夏の現地見学での意見をふまえ、「さらら」下の水辺の水深1mほどのところを、平均30cm程度の深さとなるように砂利を敷いたり、対岸のわき水をホースで引き込んだりしました。今後は、その付近に「ミクリ」という絶滅危惧種のめずらしい水性植物が生息しているので、そこを観察場所にしたり、便利に降りられる階段も検討してみたいと思います。
- 春からは、増水の影響による川の変化をみながら、草刈りや砂利を敷いたりして、カヌー乗り場や水辺の遊歩道づくりなどを、NPOや地域の皆さんと一緒にやったらどうかと考えています。
- 子ども達だけでそこに入って、遊んで何かあったら…という心配があります。
- 普段、子ども達が遊ぶ時は父兄同伴とするとか、何かの行事の時は主催者側がレスキューなどの資格を持った人を用意する形をとらないと難しいのかなと思います。
- 是非、学校で宣伝したいと思います。実際、昨年は学年行事でここに来ていて、親も付いてくるので安心です。またここは環境もいいし「さらら」など、天候が急に崩れてきてもお弁当食べたりできたりと、施設がいろいろ揃っているのですごく使えるなと思います。学年行事には最適ではないかと思えます。
- 融雪の大水でヘドロが溜って、石の上がツルツル滑ることが心配。本流の水を補助的に流し、洗浄効果をあげるようなことも考えては。
- ブラシがけが必要かも。「オヤジの会」の清掃事業の中でやれたらいいでしょうね。
- 消防練習の時に、溜っている泥をホースで除去してもらうというのはどうでしょうか。

地元小学校の総合学習支援について

- 昨年、夏休み期間を利用して「ぐるっと永山みてある記」と題して、永山地域の学校の先生方を対象に、永山地域の歴史・文化・河川施設などの見学や、水生生物調査やカヌーなどを体験していただき、地域に対する理解を深めてもらい、今後の総合学習にも役立ててもらおうということで実施しました。

- 先生方からは、「日頃、経験できないことが出来てよかった」と大変好評だったので、今年は地域の父母の皆さんも含めてやってみたらどうかと考えています。
- 父母さんも、そういうことであれば学年行事など、同じ気持ちになって協力し合えると思うし、今後ますます水辺が利用される方向に向かうのではないかと思います。
- 是非、学校ばかりに頼るのではなくて、我々、地域の人もいろいろ勉強しながら川に親しんでいけたらと思います。春になると河川敷では、けっこうな人が駐車場に車を置いて水辺散歩しています。

管理センターの施設活用について

- 旭川教育大学の大鹿先生という方が『水や水資源の重要性を学ぶ取り組み』をなさっています。そこで旭川大学の生徒さんを「さらら」に集めて、水の遊び、水の大切さ、川の魅力、川の怖さなど、いろいろなことを大鹿先生に教えてもらう。そしてその生徒さんは、子ども達を集めてそういうことを教えていく。それは地域の方も含めて、そういう指導者の育成によって底辺も拡大していく。そういうような取り組みをやってはどうかと思っています。
- また、植物の先生だとかいろいろな先生を確保して、何かの行事の時に対応していただけるような仕組みも築いていきたいと思っています。
- 必要だと思います。そういういろいろな先生方を利用させてもらって、川に関するここなりの指導者を育成する。父母でも学生でもいいんですけど、学習カリキュラムみたいなものを作って、これができたら「何級」とか、という目標があって、その後ろにその世界の深さみたいなのがあったら大人がはまっていく部分っていうのが、すごくあるような気がします。そういうような大人を意図的につくっていくことで、おのずと子どもがついて来るような…。そういうのができたらいいと思います。
- また「川のめぐみ体験学校」の活動がすごくオモシロそうだなと思いました。参加している子に年齢差があり大人もいるし楽しい活動だと思います。こういう中にボランティアとして入っていくことで、生身の子どもと共に学習できる場になっていき、もっと実践的な部分としての大人の育成にもすごく役立つ場になるんじゃないかと感じます。すでに、子ども達とか親達が、その魅力に気付き始めている面が出て来ているんじゃないかと思うので、今後の指導者の育成にも使えるような気がすごくします。
- 今、親が子どもに教えるって言っても、親が遊んでないから教え方がわからない。だから親子でもって一緒に体験して覚えようということなんです。そこから始めないと。
- 徐々にそういう中で親子関係が上手く回っていく。そういう一つになればいいなと思ってます。

- 「さらら」では、地域の子供達に気軽に永山の歴史や河川環境に触れてもらえる仕組みづくりの一環として「昔の米作り」の様子を「現在の米作り」と比較できるようなパネルや、子ども達に自由に持って行ってもらえる「永山歴史年表」や「永山新川の季節の植物」を作成中です。それを持って外に出た時に「この花見つけた!」とか…。興味をひくちょっとしたきっかけになればと思います。
- 子どもって、こういう「モノ」探すことって喜びます。オリエンテーリング的でゲーム性があると真剣になって探します。きっと名前も覚えるんじゃないかな。
- 旭川河川事務所では、「出前講座」を随時受付しています。水生生物や川の歴史のことなど、総合学習の一環としてぜひ活用ください。経験者する若手職員がいっぱいいますし、近いのですぐできます。



(財)旭川河川環境整備財団の
庄司専務理事



旭川河川事務所の小松課長



川のふるさと交流館さららの
帯川館長



児童クラブホロホロの
谷地元代表



地元小学校の総合学習支援や管理センターの利用について、様々な意見が交わされました